



第3回 第二中学校区学校運営協議会

小中学生、地域の大人、保護者による熟議(ワイワイトーク)をもとに協議を展開

二中校区の小中学生、地域の大人、保護者が校区の課題や現状をともに共有し、「魅力的な地域にするために何ができるか」を大きなテーマに、活発な対話と議論を重ねる熟議(ワイワイトーク)を8月24日(木)に実施しました。その中で、小学生や中学生が自分の思いを積極的に語る姿は圧巻でした。

中学生からは、「小学生をはじめ、地域の方とつながることの意味を強く感じる事ができた」という感想や、「もっと、異なった世代の人たちといろいろなことについて話し合ってみたい」といった声を聞くことができたのは、とてもよかった。」と学校運営協議会の委員の中からも、感想が聞かれました。

9月26日(月)の第3回学校運営協議会では、この時の熟議(ワイワイトーク)を受けて、そのふりかえりと第二中学校区の今後の取組の方向性について協議を行いました。

その中から、委員のみなさんから出された声をいくつか紹介してみたいと思います。

イベントや行事に関すること

- 参加した中学生からは、地元への魅力や「県外に出たとしても、境港に戻ってきたい」という声があったのは、とても心強かった。
- この地域の中で、地域の様々な人や自然とかかわることができるような海岸清掃とか、地域を盛り上げる活動である公民館祭りなどへのかかわりができるようにになったらよいと思う。
- いろいろなボランティアや地域活動を計画しても、子どもたちが「自分から取り組んでみたい」「やってみたい」と思えるようなものにしていく必要がある。大人がイベントを用意することより、子どもたちが本当に取り組んでみたいという声やアイデアを拾うことが大切だと思う。そのためにも、熟議の場が大切だ。
- 子どもたちの思いが高まり、本当にやっ

てみたいと思う取組をサポートし、「自分たちでやれた」という思いになるようにしていきたい。

- 学校に地域活動へのボランティアの案内を出しても、なかなか、集まらないのが現状である。子どもたちが、自分から「やってみたい」と思えるように、様々な働きかけを家庭をはじめ、発信する必要がある。地域での情報もあわせて、子どもたちに発信していく必要もある。

ワイワイトークについて

- 今回のような熟議(ワイワイトーク)や多様な世代と子どもたちが語り合う場を丁寧に設けていくことが必要だと思う。
- 第二中学校では、第2学年の生徒を対象にしたCHA³プログラムという取組を実施している。地域の方や大学生と中学生が対話を通して、人の生き方や考え方に共感し、社会への興味や関心を高め、自らの目標を意識できるようにと年間の学習計画の中に位置づけている。
- 学校でも、学習の場で多様な世代との対話の場を設けているとのことだが、学校の負担にならないようにしながら、地域の方で、子どもたちが多様な立場の方と自分の思いを語り合ったり、思いを形にしていったりできるしゃべり場・カタリ場の機会を増やせると思う。
- 今回のワイワイトークは大変良かった。ただし、小学生にとっては身近な中学生との対話の機会を、中学生にとっては高校生との対話の機会を求めているのではないだろうか。

子どもたちには、段階を踏んだ対話の機会と場を増やしたい。

- 今回は、学校運営協議会で企画した熟

議(ワイワイトーク)だったが、子どもたちが「こんなことをやってみたい」というところまでの話し合いになりえなかった。今後、計画をしていく上で、進め方やテーマの持ち方を工夫していく必要があると思う。

来年度も、ワイワイトークをはじめとする対話の機会をできるだけ複数回設けていくことにしましょう。



地域のことを学ぶ機会をもつ

- 大きくなっても地元に住みたいという中学生の声を聞く中で、小中学生が地元の企業や事業所などの方とのふれあい、話ができたり、仕事について知ったりするような学びができるようになるとうい。
- 中学校では、職場体験やいろいろな仕事に携わっていらっしゃる方からの話を聞くなどの取組を盛んに行っている。対話を通して、生き方について学べるよう工夫している。
- 小学生にとっては、中学校のような取組は難しいこともある。

たくさんの意見や今後の方向性について提案がみられました。まずは、「子どもたちが自分たちの目線で何をしたいのか」ということを確かにしながら、子どもたちの思いを形にしていくために、頑張っていきたいと思います。(副会長)